



2017年度LSO利用状況

今年度は学習スキルに関する支援の充実が進んだ年となりました。4月開催のスタディ・スキルセミナーでは「失敗しない講義の受け方」「レポートの書き方 講義編」「レポートの書き方 実験編」「文献の探し方」のテーマで開催し、計16回(各テーマ4回)の開催で、延べ486人の参加人数となりました。これは過去最高の参加者数です。特に全学教育科目「自然科学実験」で課題となる実験レポートについて

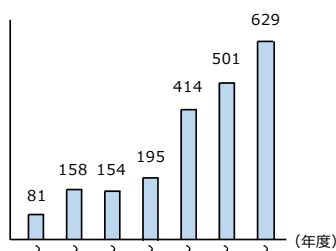


図1 スタディ・スキルセミナー延べ参加人数

の回は多くの参加者が集まりました。10月開催の同セミナーでは「失敗しない講義の受け方」に代えて「プレゼンの方法」というテーマを含め、計16回の開催で延べ143人の参加者となりました。

一方で、これまで順調に利用実績を伸ばしてきた学習サポート(個別学習相談)は、大きく年間利用者数を減らす結果となりました。昨年度の利用状況と比べてみると、第1学期の期末試験期にあたる7月の延べ利用人数に大きな差が見られます(2016年7月延べ534人に対し2017年7月192人)。例年、期末試験期に利用が伸びるのですが、今年度は例外的にそうはなりません。このような結果になった原因の特定には残念ながら至りませんでした。反省できる点は反省し、今後の支援の充実に取り組んで参ります。

本誌前号でお伝えしたように、長らく実施が見送られていた

英語コミュニケーション(英会話教室)を2017年10月より再開しました。今後は各学期に週1回のペースで全10回の実施を



スタディ・スキルセミナー「レポートの書き方 講義編」より

基本的な枠組みとし、継続的に実施する予定です。

資料配布型の学習支援として、物理のコツシリーズに加え、統計学のスズメシリーズの配布が2017年度第1学期より始まりました。このシリーズは、文系・理系問わず重要となることの多い統計学の基本的な考え方について、全学教育科目「統計学」の内容に沿って、要点をまとめたものです。確率変数とは何かから始まり、統計的仮説検定の考え方までを解説しています。また、スタディ・スキルセミナーの内容をまとめた学習資料もリニューアルして2017年度第2学期より配布を開始しました。これらの教材は学習サポート室E211前や北図書館2階にある資料スタンドから入手できるようになっています。(浅賀主祐)

表1 2017年度利用状況

	延べ利用者数(カッコ内は2016年度実績)
進路選択・履修相談	733人※2(802人)
進路相談会(学部時間割ポスター展示)	428人(315人)
学習サポート	2489人※2(3195人)
スタディ・スキルセミナー※1	629人(501人)
アカデミックスキルセミナー※1	48人(143人)
英語コミュニケーション	64人(61人)
物理のコツ(全22回)	累計6567部配布(同7394部)
統計学のスズメ(全5回)	累計2203部配布(---)
学習スキル資料(全3回)	累計500部配布(---)

※1 附属図書館との共同開催

※2 2018年3月12日時点

チューター研修会 報告

2018年3月5日に東北大学にて、東北大学学習支援センターおよび福島大学総合教育研究センターと学習支援スタッフ合同研修会を行いました。

この研修会は異なる学習支援組織に所属するチューター間の交流や情報交換を目的としたものです。LSOからチューター4名、東北大から Student Learning Adviser(SLA) 8名、福島大から学びのナビゲーター4名が参加しました。

今回の研修会では「自分たちは何をしているのか」「支援相手に何を求めているのか」「自分たちの強みとは」「自分たちの改善点とは」という4つの観点について自分なりの答えを探ることを目標としました。まず、お互いの機関の活動内容を紹介し、自分たちの組織の強みや改善すべき点について意見交換を行いました。その後、学習相談系グループと学習企画系グループに分かれてワークショップを行いました。学習相談系グループでは、チューターとして立ち回る為に乗り越えるべき壁とその打開策について話し合わせ、自分の思い通りの対応ができたかどうか確認するためのセルフチェックシートの導入について検

討されました。一方、学習企画系グループでは、チューターのコミュニケーション能力の向上を目指したゲームの発案を目指し、相手の情報や相手が尋ねて欲しいことを引き出すゲームが提案



ワークショップでの討論の様子

されました。他の学習支援組織の考え方や長所に触れることができ、LSOチューターにとっても大きな刺激となったようです。

東北大・福島大ではSLA・学びのナビゲーター自身もセミナー開催や教材作成など、幅広い学習支援活動に参加しています。LSOでも、学生の目線に近いチューターの力をより活かせるような環境作りが重要であると実感しました。(城谷大)

「退職のご挨拶」

LSO特定専門職員 吉安徹

2017年4月に着任し、この度2018年3月に退職することとなりました。初めての北大・初めての職員勤務・初めての北国生活、初めて尽くしの1年間でした。北大の各学部の特徴やカリキュラム、総合入試の仕組み、職員側から見た大学の姿など、LSOならではの知見を多く得ることができたと思います。1

年間関わっていただいた皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、私の主な担当は学習サポートでした。そこで最も強く感じたことは、やはり北大生は優秀ということです。「数学が苦手なんです。」と言いながら、良い視点を持っている人、高い計算能力を持っている人、理解の早い人がたくさんいました。総合入試の振り分け結果は人それぞれですが、振り分けはゴールではありません。大学生活はこ



れからです。自分の能力と可能性に自信を持ち、しかし慢心することなく、様々なことにチャレンジしてほしいと思います。

「学修支援という仕事」

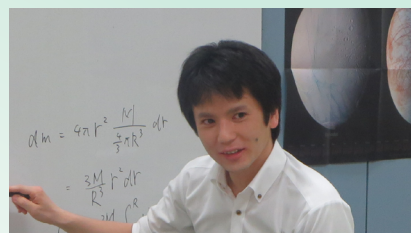
LSO特定専門職員 浅賀圭祐

大学では主体的な学びが重要だという訳ですが、誰だって好きなことなら主体的に学んでいます。本学に入学するような学生であれば、何か一つくらいは興味の湧く学術分野があって、何も言われなくても関連する科目を自律的に学んでいると思います。“何か一つくらいは”と書きましたが、一つでもあれば立派です。ということは、特に一年次だと、あまり興味の湧かない科目もあって当然です。そのような科目に対しても主体的に学べと言うのは少し酷な気がします。生物系志望で入学してきた学生に、物理学も主体的に学べと言うのは、ちょっと期待しすぎです。もちろん自分の興味から遠い分野であっても、きちんと学べば血肉となって今後の学びに必ずプラスに働きます。それは学生自身も分かっています。しかし、これまで興味を持ってこなかった訳ですから、正直な脳みそはそう活発には働いてくれません。そこで学修支援が役に立ちます。誰だって、解れば面白いんです。数学が苦手だという学生でも、学生の理解のレベルに合わせ

て問題の意味や意義を説明してみせると、自然と頭を働かせ、うまく自分で解ければ面白さに表情を輝かせます。面白さを自分の手で見出すことができれば、次からは前よりも主体的に、積極的に学ぶようになるでしょう。

前述のように、まず学生の現在の理解Aを理解し、そこから求められている理解Bに繋がる“連続的”というか“可逆的”な道筋を見つけられるかどうか、高等教育の現場に限らず、学修支援者の腕の見せ所だと思います。理解して欲しい知識Bを正しく簡潔に説明するだけなら、(学位取得者であれば)誰でもできます。そうではなく、学生の話聞いて、学生の理解のレベルを察知し、学生がどのように分からないのかを見抜き、そこから求められている理解につなげる(A→B)——ここに個別の教育の価値があります。

学生の現在の理解Aに個人差が少ないならば、大人数の授業でも有意義な学びが実現するでしょう。しかし、Aに個人差が大きいならば、授業ではBを示すのが精一杯だと思います。自分の



力でAからBに変化できる学生も多いと思いますが、全員とはいきません。まず学生自身がAを自覚できていない場合もありますから(力学や熱力学の基本的な概念の理解など)。そんなときに学修支援は効果的です。

私はこれまで何人も学生の、物理を面白がってもらうことができました。何度も質問しに来て、“全然良く分からない”から“物理系分野に進むことになってもなんとかやっていけそう”とまで印象を変えた学生もいました。教育者を目指す私にとって、LSOでの経験は大きな財産です。

また、様々な分野を修めた同僚に囲まれたこと、進路選択支援に取り組んだことにより、学術に関する視野を多分に広げることができました。このような職からキャリアをスタートさせることができたのは大変な幸運だったと思っています。

編集後記

利用者の多さからどうしても学習支援の方に力が入ってしまいがちなのですが、進路選択支援こそLSOの重要な役割です。2018年度は進路選択についての個別相談の充実、これまで以上に取り組んで参ります。2017年度も多くの皆様にご支援ご協力を頂き、誠にありがとうございました。(浅賀圭祐)



ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 電話:011-706-7526 E-mail:lso@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL:http://asc.high.hokudai.ac.jp/

次号は6月発行予定です